

20011

StentBoost を用いた冠動脈ステント拡張径計測と3回拡張法の有用性の検討

背景：冠動脈ステントはより大きな拡張面積を得ることで慢性期ステント内再狭窄のリスクを低減し、血管壁への確実な圧着が合併症を軽減させることが報告されている。近年、IVUS、OCT、FFR、血管内内視鏡などのイメージングデバイスを使用しステント拡張評価を行うが、保険診療上これら複数を組み合わせて使用することは難しい。目的：StentBoost によるステント拡張評価と IVUS により計測されたステント拡張径を比較することで StentBoost の拡張径計測の精度を求める。ステント展開留置時に3回拡張法（一定圧力による20秒拡張を3回）を施行し、拡張毎に StentBoost 撮影を行いステント拡張径を計測した。方法：2012年6月～2013年5月の期間で StentBoost と IVUS の両方を施行した PCI 30 症例を対象とし、StentBoost の解析で得られる最小ステント径[mm]、IVUS で得られる MSA[mm²]よりステント拡張径を算出し、これらを比較する。3回拡張法では拡張毎に StentBoost 撮影し、最小ステント径の計測を行い、拡張回数毎にステント拡張径の評価をした。結果：StentBoost 解析は、IVUS で計測した MSA より算出した最小血管径と良好な相関を示しその正確さが証明できた。また、3回拡張法では1回目に比べ3回目においてステント径がより獲得することができた。結論：StentBoost はステント拡張径の計測に有効であり、IVUS 等が使用出来ない状況において、これを用いることによりステント拡張径を計測することが可能である。また3回拡張法は良好なステント拡張径の獲得に有効であった。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号